

サステナブルに生まれ変わる!

紙面版にはない
オリジナル記事が読める
デジタル版はこちら



里山から耕す 神戸の未来

神戸の市街地からほど近いエリアに広がる自然豊かな里山。人々の暮らしが里山で営まれることで、美しい風景や動植物が共生する環境が守られてきました。しかし、里山は手入れされずに放置されると、田畑や森

林などが荒れ、生物多様性が失われてしまいます。今、地域の皆さんや学生などたくさんの人の参加により、神戸の里山の再生、さらにその先につながる活用が始まっています。



PROJECT 1

経験ゼロの学生たちがSDGsな農業にトライ!

ABOUT リコラボ神戸



リコラボ神戸は、「大学発アーバンイノベーション神戸」をきっかけに始動した、関西学院大学の学生を中心としたエコボランティア団体。農業の知識や経験がまったくない学生たちが経験者に教わりながら、イチから畑づくりを行っています。

大学発アーバンイノベーション神戸とは…

地域や行政が抱える課題を解決するため、若手研究者の活動経費を補助する仕組み

生物多様性を守るため「無農薬・化学肥料を使わない農業」を徹底。北区の弓削牧場から仕入れた液肥を肥料にしたり、自分たちで手作りしたバイオ炭を活用したり、SDGsを意識した活動をしています。プロジェクトが始動して2年目ながら、使われていなかった田畑を1.5ha開拓。今秋からは、子ども食堂へ届けるパンの材料になる、小麦の栽培に挑戦します。

リコラボ神戸流 農業のポイント

[POINT ①]

試行錯誤の連続



分からないことの連続のため、インターネットや人づてで情報を集めて実践

[POINT ②]

何でも手作り



外来生物を捕まえて有機肥料にしたり、農機具を手作りしたり現地調達の基本

[POINT ③]

社会問題に貢献



収穫することが目的ではなく、活動を通じて社会・環境問題の解決に貢献

COMMENT

農村地域の空き家をリノベーションし、活動拠点にする計画も進行中。地域の人を巻き込んで、持続可能な活動を続けていきます

リコラボ神戸 雷定 弦生さん



豊かな生態系の循環をつくる



PROJECT 2

放置竹林からサステナブルな新名物を開発中!

ABOUT

淡河バンブープロジェクト



淡河バンブープロジェクトは、放置竹林の問題を解決するために集まった、淡河町地域振興推進協議会の有志チームが取り組むプロジェクト。「KOBÉゼロカーボン支援補助金」を活用し、竹菜(メンマ)作りや竹細工のワークショップなどに挑戦中。

KOBÉゼロカーボン支援補助金とは…

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指すため、地域貢献する取り組みを補助する制度

昔は暮らしの中で、カゴや箸などに使われていた竹。現代では、プラスチックなどに置き替わり、担い手が減ったことで放置されて荒れた竹林が増えました。そこで、竹を大量消費できるものがないかと探し、注目したのが竹菜(メンマ)。地域の農家の人が切り出した、成長しすぎたタケノコ(幼竹)を買い取り、竹菜(メンマ)に加工!加工できない大きな竹は竹細工にして販売。2022年は約2tの竹を切り出しました。加工時に出る廃棄物は肥料にするなど、地産地消を促進しています。

COMMENT

竹菜(メンマ)づくりで地域雇用が生まれ、廃棄物を活用したり、課題だった放置竹林が資源となる日も近いと思います

淡河町地域振興推進協議会 武野 辰雄さん



廃棄物が資源として循環

幼竹を伐採



地域の農家さんが幼竹(大きくなりすぎたタケノコ)を伐採。地域雇用も創出

幼竹を商品化



収穫した幼竹を竹菜(メンマ)として加工。大量生産することが目標

廃棄物の利活用



竹菜(メンマ)や竹細工づくりで大量に生まれる廃棄物を、肥料づくりに活用

竹細工を販売



食べられない竹は、カゴやコーヒーフィルターなどの竹細工として販売

PROJECT 3

公共建築物に木材を活用! 森林資材の地産地消

ABOUT

森林や竹林整備の過程で発生した樹木を、建築物に活用しています。

椅子やサインに、六甲山などの木材を使用



こども本の森 神戸

中央区役所・中央区文化センター

多目的ホールの正面壁やエントランスホールの壁ルーバーに使用

大人も子どもも楽しめる！

里山の遊び場

SPOT 1

四季を感じ、ローカルな魅力を発見できる「里山サイクリング」

西区押部谷町・伊川谷町

緩やかな道が多く、自転車初心者でも楽しめます。寺社仏閣や一休みできるカフェも点在しています。



北区大沢町・淡河町・八多町



茅葺き民家や棚田など里山ならではの風景が魅力。味覚狩りスポットも多数あります。

西区神出町～北区山田町

BE KOBEモニュメントが写真スポット。春には桜、秋には紅葉など季節ごとにさまざまな景色を楽しめます。



COMMENT

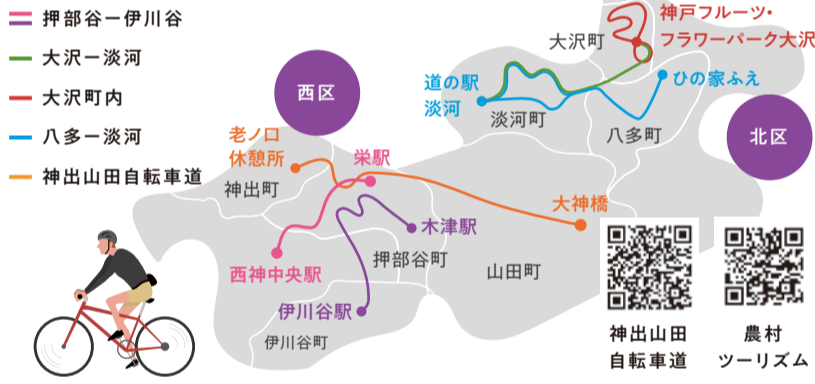
点在するスポットをつなぎ、訪れる人を増やして知ってもらうことで、季節の伝統行事、貴重な文化財などを後世につないでいきたいです



神戸地域おこし隊 吉田 彰さん

農村定住促進コーディネーター 増田 幸市さん

サイクリングロードMAP



ART&TRADITIONAL PROJECT

現代風に生まれ変わった 伝統工芸「茅葺き」

株式会社くさかんむりは、北区淡河町を拠点に、伝統的な茅葺きの修復に加え、現代的な茅葺きに挑戦。街のイベントなどで茅葺きの魅力を伝えています。



茅葺職人 さがら いくや 相良 育弥さん

山の神戸の豊かさを象徴する存在としての茅葺き民家の魅力を、もっとたくさんの人に知ってほしいです



SPOT 2

大人も子どもも自然と触れ合える

「里山コミュニティ さとのわ」



蜂が集めた蜜だけで作る蜂蜜



稲刈り体験

押部谷の街からすぐ近くにある、里山をフィールドにしたコミュニティ「さとのわ」。自分たちで作った野菜を食べたり、図書室をDIYしたり、子どもたちの学びの場として親しまれています。また、蜂蜜の採蜜体験や身近なものを日常で使う薬草教室など、大人も自然の恵みを体験できます。

詳細はこちら▶



EVENT

もちつき

開催日 12月28日(水)

天日干したお米のおいしさを味わえます

久元市長の神戸を想う



里山再生の息吹き

拙著「神戸残影」にも記すように、数十年前の神戸の里山は、本当に美しく、豊かだった。新炭林としての利用が途絶えて長年放置された荒廢した里山を前にして、もはやどうすることも出来ないうちはないかと諦めかけたこともありました。そのババババ大きく変わっています。本書で紹介されているように、市内各地で里山再生の取組が広がっています。幅広の年代の、さまざまな職種、学生、みなさんの新しい感想を持ち寄り、共に汗と流し、目に見える成果が、始めのころは、本当に有難いことです。このような取組が更に広がっていくことを願っています。

神戸市長 久元 喜造